

校長室から

令和元年11月20日

いじめ防止「絆」キャンペーンとは何か

前生徒会長の発表から考える事

様々な活動が、1、2年生に引き継がれて1ヶ月以上が経過しました。先日は、体育館で委任状・任命状交付式が行われました。そして、この集会の中で、これまで生徒会長として、1年間生徒会活動の中心的な存在であったA・Mさんから、感謝の気持ちが表明されました。

その内容が大変素晴らしいものだったので、ここでもう一度紹介してみます。

生徒会長という大役を務めるのは、私自身初めてで、心配な事がたくさんありました。行事の時も生徒会活動の時も、自分がどう見られているのか、周りの目を意識してしまっていました。目立つこと、それは少し悪いことだと思込んでいたのです。でも、それは間違っていました。集会では、気持ちよく皆さんの前で話ができ、行事の時も周りの目を気にせず自由な活動ができました。なぜなら、私達の学年が仲間を全力で応援してくれる学年だったからです。誰かが前で発表したり、活動したりするときでもそれを支える雰囲気は青学年にはありました。だからこそ1年間、生徒会長の仕事を楽しくできました。本当にありがとうございました。

そしてこれから学校を引っ張っていく1、2年生に私からエールを送りたいと思います。一番シンプルだけど、一番力になる言葉。顔晴れという言葉です。普通の頑張れではありません。顔が晴れると書いて、頑張れです。この言葉には、意味があります。人は誰でも目標や夢を簡単には達成できません。目標や夢に向かっていては、苦しくて笑顔もなく顔は晴れてはいないかもしれないけれど、努力した先には、顔が晴れるような良いことが待っているという意味です。 …

この文章（集会での発表）は、是非、すべての学年のすべての生徒にもう一度、意識して読んでほしいと思います。「自分がどう見られているか心配だった。周りの目を意識してしまった。目立つことは少し悪い事だと思った。」それはきっと、多くの生徒もそして大人も感じているであろう日本中に蔓延している病のようなものだと思います。それでも人間は、SNSのような匿名性を用いたツールがあれば自己表現できる場合が多くあります。しかし、その匿名性は、逆にその匿名性のために逆襲を受ける場合もあります。いわゆる「炎上」です。

とても便利ですが、ある意味殺伐とした寂しい社会に変化しているのかもしれない。だからこそ、Mさんの「それは間違っていました。私達の学年が仲間を全力で応援してくれる学年だったからです。」という文章は、とても重さを感じ、素晴らしさや清潔感も感じます。きっと3年生の生徒達も簡単にこのような良き状態になったのではなかったでしょう。個人個人考え方や感じ方も違うので、今も人間関係に悩んだり、疎外感を感じたりしている生徒もいるとは思いますが、しかし、これだけの言葉で表現できるほど、集団が成熟しようとしている事も確かな事です。きっと生徒の皆さんの努力があったと思います。そして、そのうえで「顔が晴れるように頑張る」とても素敵な言葉です。

今は、いじめ防止「絆」キャンペーン期間です。Mさんが発表したこの文書に、真剣に心を傾けたいと思います。皆さんはいかがですか。人を意図的に傷つけたり、無視したり、正しい事を称賛しない、あるいはそれが出来ない雰囲気はありませんか。人を冷笑したりしていませんか。そのような行為はいつか、自分や自分の所属する集団にマイナス要素として戻ってきます。

長町中学校がさらによき学校となるような、そして、一人一人がこの期間をしっかりと考える機会となる良き発表だと思い、Mさん本人の許可を得て掲載しました。匿名ではないこのような文章がずっと掲載できる長町中学校でありたいと強く思っています。